

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：32634

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21H00691

研究課題名（和文）1970年代の日米欧三極国際秩序の模索 日米関係史と日欧関係史の総合化の試み

研究課題名（英文）The Pursuit of Trilateral International Order: Japan, US and Europe in the long 1970s

研究代表者

黒田 友哉（Kuroda, Tomoya）

専修大学・法学部・准教授

研究者番号：10794414

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 9,700,000円

研究成果の概要（和文）：研究成果の概要を説明する。3年の間に、毎年2、3回研究会を開催した。2年目には、アメリカとフランスから国際関係史の気鋭の研究者（それぞれ1名、2名）を招き、国際シンポジウムを行なった。また2年度目から、国際シンポジウムの参加者をふくめた共著論文集の刊行を具体的に計画してきた。原稿はほぼ集まり、出版プロジェクトは、順調に進行しつつある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義は、1970年代の日米欧関係を従来よりもより包括的に検討したことである。米欧関係は伝統的に国内外で検討されてきた研究テーマであるが、本研究では、日米欧関係の総合的視野からの研究をめざし、日欧関係史と日米関係史の接合を試みた。

社会的意義としては、現代の経済的グローバル化の起源への国際社会の対応を扱う本研究は、グローバル化への異議申し立てが身られる現在の世界をよりよく理解し、今後の世界を展望するための一つの見方を提供しうることである。

研究成果の概要（英文）：We held a few workshops each year. In January 2023, we could have an opportunity to have an international conference by inviting American and French experts. We are working for the publication of a co-authored book on Japan-Europe-US trilateral relations in the 1970s.

研究分野：欧州統合史（European Integration History）

キーワード：トライラテラリズム（三極主義） 日米欧三極委員会 サミット（先進国首脳会議） GATT 通貨協調  
アパルトヘイト 原子力 石油危機

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

現代は、自国優先主義の台頭、パンデミック、権威主義国家の挑戦といった多くの課題を抱え、冷戦終結後の国際秩序からの変動期にある。一方、1970年代も、多極化の時代と言われ、米ソ優位の時代にとって代わるべき国際秩序の変動期であった。1970年代の研究はそれ自体としての価値のみならず、現代の参照軸としての意味も持つ。

これまで1970年代については、まずアメリカ、次にヨーロッパ諸国の史料解禁が進んだことによって、米欧関係を中心に研究が進展してきた。ハニマキら外交史家による大西洋関係史がそれである(Jussi M Hanhimäki et al, Transatlantic Relations since 1945, Routledge, 2012)。「欧州の年」演説にみられる米欧の政治対立といった、80年代へ持ち越されるネガティブな側面を重視する70年代解釈とは異なり、ハニマキらは、一次史料に基づき、米欧協調関係の持続を描き出した。確かに70年代は、日米欧を中心とする政治・経済面での制度化・協調が多く見られた。サミットの成立、三極委員会の創設、GATTの東京ラウンドの締結がその顕著な例である。

以上の視座にもとづき1970年代の日米欧関係を共通テーマとして設定することにした。

### 2. 研究の目的

本研究は、以下の4点を明らかにしようとする。

(1) 西側同盟諸国内で、日米欧中心体制がなぜ、どのように構築されたのかの政治、経済・軍事面での解明。特に、米欧に比べて遅れて参入してきた日本がなぜ、どのように三者を中心とした協力体制に組み込まれていったのかという点の解明である。

(2) 南北問題との関わりである。1970年代には南北問題は深刻化し、新国際経済秩序の構築まで訴えられた中、西側問題が南北問題とどのように関連していたのかの解明である。

(3) 1930年代との歴史的共通点、相違点の解明。危機の時代という面では、共通しており、新秩序が模索するという共通点がある一方、1970年代との相違点も存在したであろう。時代像の比較の解明である。

(4) 南北問題との関わりである。1970年代には南北問題は深刻化し、新国際経済秩序の構築まで訴えられた中、西側問題が南北問題とどのように関連していたのかの解明である。

### 3. 研究の方法

研究代表者、研究分担者ともに、広い意味での外交史、国際関係史を専攻している。そのため、公文書、私文書など未公開一次史料を渉猟して、1970年代の日米欧体制の変遷がなぜ、どのように起こったのか、を三極委員会、サミットなどを中心に解明するという共通のアプローチをとる。

専門分野はそれぞれの地域毎であるものの、国内外の第一線の専門家を交えた研究会(年4回程度)を重ねることで、各自が日米欧関係全体を視野に収めることができるようになると思われる。研究交流を深めることにより、お互いの専門領域を架橋するグローバルな視野を得ることが十分に可能になる。

#### 4 . 研究成果

( 1 ) 共同研究参加のメンバーが各自に研究を行ない、口頭発表の他、日欧関係を中心に新しい解釈を打ち出した論考を発表している。

( 2 ) 本プロジェクトを総括した共著論文集が近刊予定である。幸いなことに、本プロジェクトへの参加メンバーだけでなく、外部の専門家、海外の専門家(アメリカから1名、フランスから2名、イタリアから1名)から寄稿を得た。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 黒田 友哉	4. 巻 145
2. 論文標題 French nuclear diplomacy and the pursuit of Common Energy Policy, 1965-1974	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 専修法学論集	6. 最初と最後の頁 53～82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34360/00012944	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 黒田 友哉	4. 巻 147
2. 論文標題 Bart Gaens and Gauri Khandekahr (eds.) Inter-Regional Relations and the Asia-Europe Meeting (ASEM)の紹介	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 専修法学論集	6. 最初と最後の頁 423～436
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森 靖夫	4. 巻 131巻4号
2. 論文標題 「書評・諸橋英一『第一次世界大戦と日本の総力戦政策』（慶應義塾大学出版会、2021年）」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 史学雑誌	6. 最初と最後の頁 485～492頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木 宏尚	4. 巻 26
2. 論文標題 「自由貿易体制の構築と冷戦の始まり 試論的考察」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 静岡大学法政研究	6. 最初と最後の頁 23～49頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14945/00029117	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田 友哉	4. 巻 142
2. 論文標題 比較地域主義研究の先端 Drivers of Integration and Regionalism in Europe and Asia, (New York : Routledge, 2015)の紹介	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 専修法学論集	6. 最初と最後の頁 217 ~ 232
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34360/00012271	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 能勢和宏	4. 巻 37
2. 論文標題 欧州共同体の万国博覧会への参加 ブリュッセル万博(1958)、モントリオール万博(1967)、大阪万博(1970)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 帝京史学	6. 最初と最後の頁 241 ~ 296
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森靖夫	4. 巻 73/2
2. 論文標題 「史料解題・翻刻 横田章陸軍主計正講述『軍需工業動員概説』」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 同志社法学	6. 最初と最後の頁 397-455
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14988/00028412	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森靖夫	4. 巻 7月10日
2. 論文標題 「書評・関口哲矢『強い内閣と近代日本』(吉川弘文館、2020年)」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 図書新聞	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Tomoya Kuroda
2. 発表標題 “French nuclear diplomacy and the pursuit of European autonomy in the 1970s.”
3. 学会等名 ERiHs(European and Regional Integration History Study Group) (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Tomoya Kuroda
2. 発表標題 “ASEAN - Europe Diplomatic Relations in the shadow of Japan in historical perspective,”
3. 学会等名 ERIA Seminar (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 能勢 和宏
2. 発表標題 「1970年大阪万博へのECの参加」
3. 学会等名 日本西洋史学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鈴木 宏尚
2. 発表標題 ブレトンウッズ体制と日本
3. 学会等名 日米欧研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 黒田友哉
2. 発表標題 「1970年代ヨーロッパの国際秩序観：仏独の立場を中心に」
3. 学会等名 国際史研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 黒田友哉
2. 発表標題 「書評報告 Pierre Journoud, De Gaulle et le Vietnam (1945-1969), Paris : Tallandier, 2011)」
3. 学会等名 日米欧研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Toshihiko Aono
2. 発表標題 "ABMs for Allies?: The Johnson Administration, Japan, NATO and the Anti-ballistic Missiles"
3. 学会等名 Cambridge Workshop: Conflicts, Geography, and Pax Americana in Cold War East Asia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 能勢和宏
2. 発表標題 「ブックプレゼンテーション：『初期欧州統合1945-1963』」
3. 学会等名 統合史研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 能勢和宏
2. 発表標題 「東京ラウンド研究における米・EC中心史観」
3. 学会等名 日米欧研究会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 Tomoya Kuroda, "France, Decolonisation, and the Global South: France 's Struggle for a New World Order" (pp.119-129.)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 411
3. 書名 Kumiko Haba, Alfredo Canavero and Satoshi Mizobata (eds.)100 Years of World Wars and Post-War Regional Collaboration	

1. 著者名 森靖夫、第13講 「国家総動員論」 (263～277頁)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 325
3. 書名 山口輝臣・福家崇洋編 『思想史講義 戦前昭和篇』	

1. 著者名 森靖夫、38 「軍部と政治」 (306～307頁)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 388
3. 書名 岩城卓二・上島亨他編 『論点・日本史学』	

1. 著者名 倉科一希「核協議の制度化 - NPG組織の変遷と役割」(39-61頁)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 信山社出版	5. 総ページ数 224
3. 書名 岩間陽子編『核共有の現実』	

1. 著者名 倉科一希「アメリカと「ドイツ問題」」(121-137頁)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 彩流社	5. 総ページ数 388
3. 書名 伊藤 詔子、中野 博文、肥後本 芳男編『アメリカ研究の現在地』	

1. 著者名 森靖夫	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 360
3. 書名 『日中戦争研究の現在：歴史と歴史認識問題』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	倉科 一希  (Kurashina Itsuki)  (00404856)	同志社大学・グローバル地域文化学部・教授   (34310)	
研究分担者	能勢 和宏  (Nose Kazuhiro)  (10757058)	帝京大学・文学部・講師   (32643)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	青野 利彦  (Aono Toshihiko)  (40507993)	一橋大学・大学院法学研究科・教授    (12613)	
研究分担者	森 靖夫  (Mori Yasuo)  (50512258)	同志社大学・法学部・教授    (34310)	
研究分担者	鈴木 宏尚  (Suzuki Hironao)  (80415926)	静岡大学・人文社会科学部・教授    (13801)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 The Pursuit of Trilateral International Order	開催年 2023年～2023年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------